

プロトコール名 BEP療法

- 進行・再発癌     
  術後補助化学療法     
  術前補助化学療法  
 大量化学療法     
  局所療法     
  その他(放射線治療併用)

投与順	抗癌剤名(商品名・略号)	1日投与量	投与法	投与時間	投与日(d1, d8等)
1	ブレオマイシン	30 mg/body	点滴静注	30分	d2,9,16
2	エトポシド	100 mg/m <sup>2</sup>	点滴静注	60分	d1-5
3	シスプラチン(CDDP)	20 mg/m <sup>2</sup>	点滴静注	120分	d1-5
4					

1コース期間 (次コースまでの標準期間)	3
総コース数	基本3コース(最大4コース)
コース間での休薬の規定	基本は休薬しない

減量規定・中止基準	基本は減量、中止はしない ・高度の骨髄抑制等の副作用出現、アレルギー等 ・間質性肺炎・肺線維症等の重篤な肺症状
投与量の増量規定	なし
投与期間の短縮規定	なし
コースによる変化	なし
1日の中での抗癌剤投与順	エトポシド→CDDP→ブレオ
プレメディケーション・ポストメディケーション	<プレメディケーション> day1-5: グレニセトロン注1mg+デキサメタゾン6.6mg (患者によるアプレピタント) day9, 16 : デキサメタゾン3.3mg

患者条件

※CTCAE v4.0

PS0-2、主要臓器機能が保たれている

除外規定

- ・ブレオ、エトポシド、CDDP(または白金を含む製剤)に対し重篤な過敏症の既往歴あり
- ・重篤な骨髄抑制、腎障害、肝障害、肺障害、心疾患がある患者
- ・妊婦又は妊娠している可能性あり
- ・胸部あるいは腹部に放射線療法を受けている患者
- ・感染症合併、および発熱を有し感染症を疑われる患者

実施上の注意点

- ・減量や、休薬により有効性が低下する報告があるため、できるだけスケジュール通りいくために制吐剤やG-CSF等の支持療法を考慮する。
- ・ブレオマイシン: 労作性呼吸困難、発熱、咳、捻髪音(ラ音)、胸部レントゲン異常陰影、A-aDo2・Pao2・DLcoの異常などの初期症状があらわれた場合には直ちに投与を中止し、適切な処置を行うこと。最大360mg/bodyまで(他のレジメンでは300mg/bodyまで)